



甲子兵燹図（部分・京都大学附属図書館蔵）



幕末政治の主役である長州藩は、尊王攘夷運動の旗手として、文久期には国政をけん引する存在でした。しかし、八月十八日政変によって主導権を薩摩藩に奪われ、また、下関戦争によって即時攘夷から未来攘夷に転換しました。こうした厳しい状況下で、長州藩は復権を目指し、薩摩藩との融和を成し遂げて幕府打倒にまい進することになります。

具体的には、禁門の変、第一次長州征伐、四国艦隊下関砲撃事件、功山寺拳兵、坂本龍馬の薩長融和周旋、「小松・木戸覚書」（いわゆる薩長同盟）、幕長戦争（第二次長州征伐）、鳥羽・伏見の戦いなどを論じますが、特に長州藩と薩摩藩が対立から融和に向かう実態を解明します。

最新の研究成果を織り込み、歴史の大きな流れを俯瞰しながら、幕末維新を分かり易く、そして深くお伝えします。幕末維新史初心者の方から、ある程度ご関心をお持ちの方まで、幅広く受講いただける内容です。

（町田明広）



四国連合艦隊による前田砲台占拠
(The Illustrated London News Dec.24,1864)



西郷隆盛肖像（国立国会図書館蔵）

毛利嶋山官軍大勝利之図（京都大学附属図書館蔵）

